

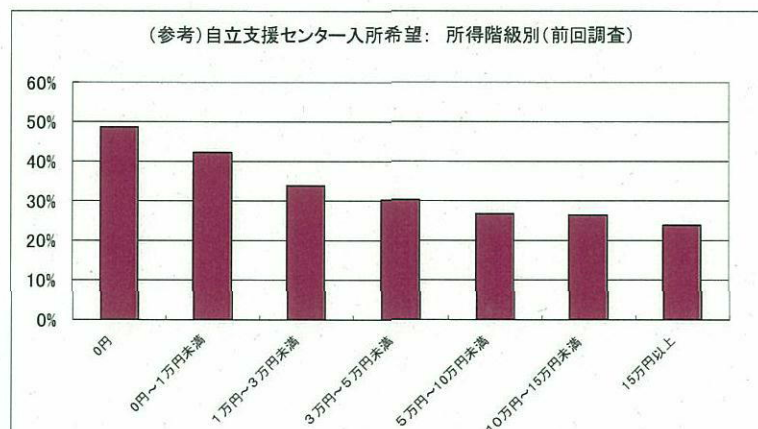
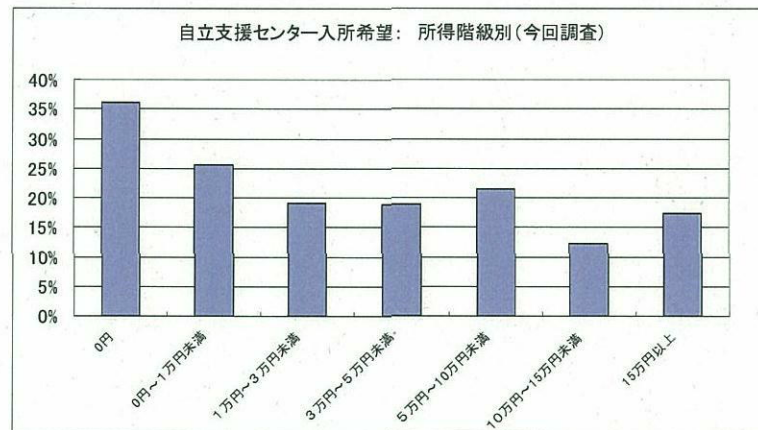
(表 Q26\_4)。

Q26\_4 問26で「知っているが、利用したことがない」と答えた方について、今後自立支援センターを利用したいと思いませんか。

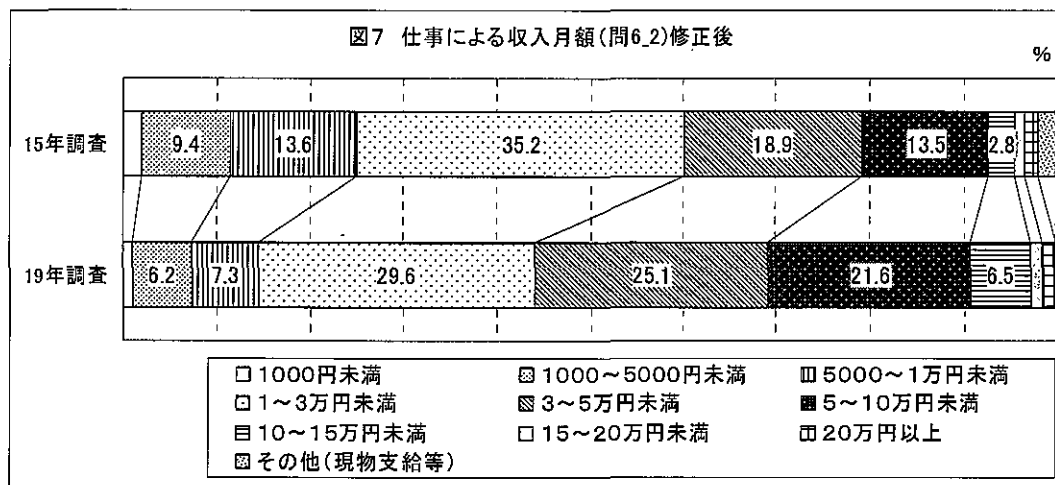
今回の野宿期間	n	%	思わない		思う		欠損値	計	
4年以上	600	54.1%	490	82%	106	18%	4	1%	600
4年未満	496	44.7%	340	69%	151	30%	5	1%	496
欠損	13		10	77%	3	23%	0	0%	13
	1109		840	76%	260	23%	9	1%	1109

$\chi^2$ 乗 = 24.08 <.0001

自立支援センターへの利用希望は、所得にも大きく影響されることが前回調査でも明らかであり、今回も同様の傾向が確認された。(自立支援センターの利用希望については、今回調査と前回調査とは聞き取り対象者が異なっているので、数値を比較することはできない。)



今回調査の仕事による収入の分布を前回と比べると以下の通りである。これによると、全体的に仕事による収入は増加している(3～5万円、5～10万円の増加が著しい)。



これらの結果をまとめると、以下となる。

- ① 自立支援センターの利用経験者は、現路上生活者の約9%にのぼる。利用経験者は、比較的に年齢が低く、今回の路上生活期間が短く、所得が低い層である。
- ② 同様に、自立支援センターへの今後の入所希望者も、比較的に年齢が低く、路上生活期間が短く、所得が低い層である。
- ③ 自立支援センターへの利用希望は低迷している。

約60%を占める「自立支援センターを知っているが、利用したことはない」層において、センターの利用希望者は約4分の1である。その背景には、三つの動きがある。一つは、比較的に年齢が低く、路上生活期間が短く、所得が低い、という就労意欲が高く、利用希望が高い層が路上生活者に占める割合が相対的に減っていることである。(図1、図2、図7)二つめは同じ年齢層、同じ所得層でも就労意欲が減っていること(図5、図6)。三つめは、就労意欲がある者においても、自立支援センターの利用希望が低迷していることである。

- ④ 65歳以上の路上生活者の周知徹底の薄さ

65歳以上の路上生活者は、路上生活期間が長いにもかかわらず、自立支援センターの施策そのものを知らないケースが多い(44%)。